

2. 暮らしやすさ

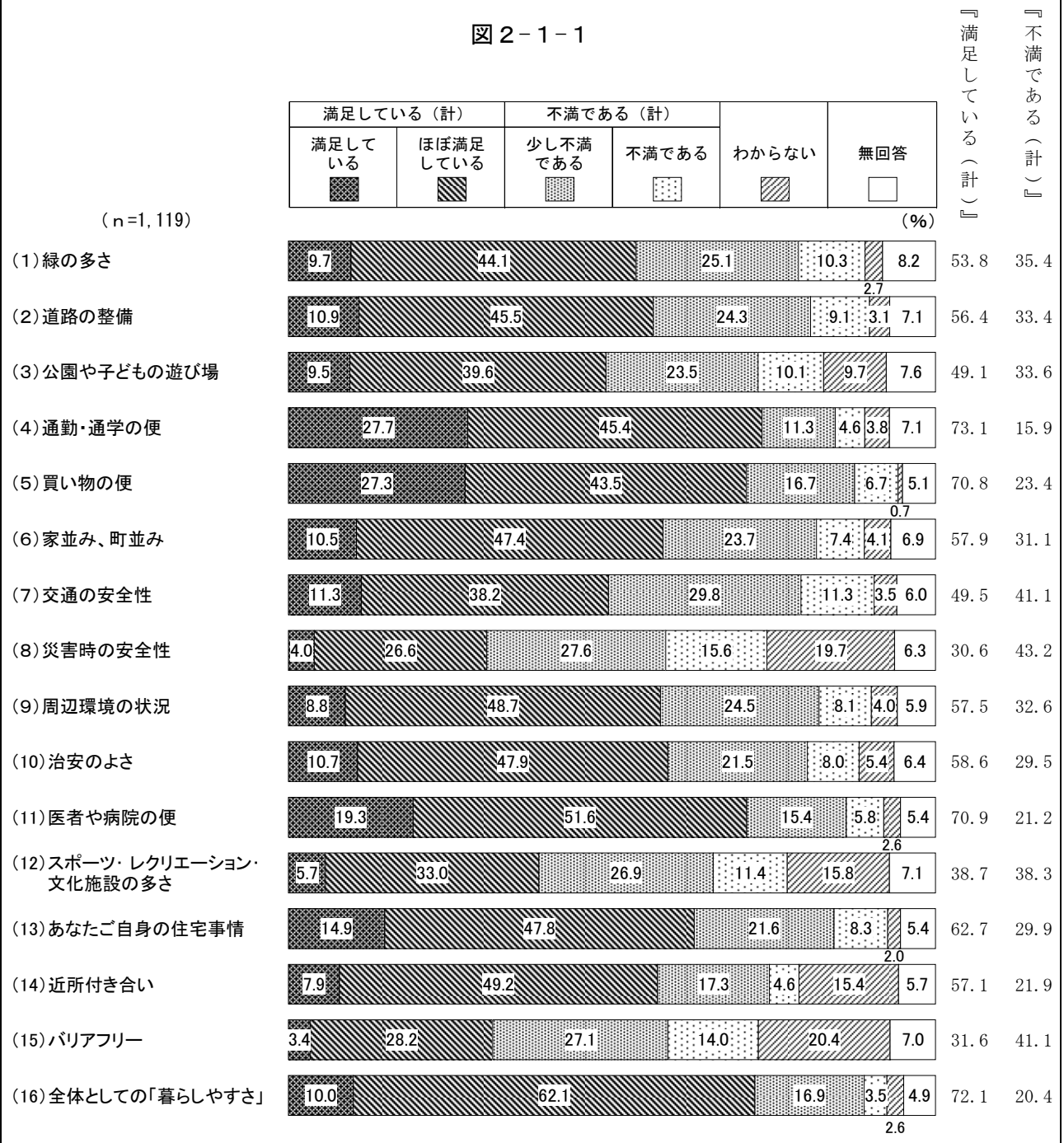
(1) 生活環境の満足度

◇「満足している」と「ほぼ満足している」を合わせた『満足している（計）』は“通勤・通学の便”と“全体としての「暮らしやすさ」”で7割を超える

問4 あなたは、住んでいるまちの生活環境について、どの程度満足していますか。

(○はそれぞれ1つ)

図2-1-1



住んでいるまちの生活環境について聞いたところ、『満足している（計）』は“通勤・通学の便”（73.1%）と“全体としての「暮らしやすさ」”（72.1%）で7割を超え高くなっている。一方、「少し不満である」と「不満である」を合わせた『不満である（計）』は“災害時の安全性”（43.2%）、“交通の安全性”と“バリアフリー”（ともに41.1%）で4割を超え高くなっている。（図2-1-1）

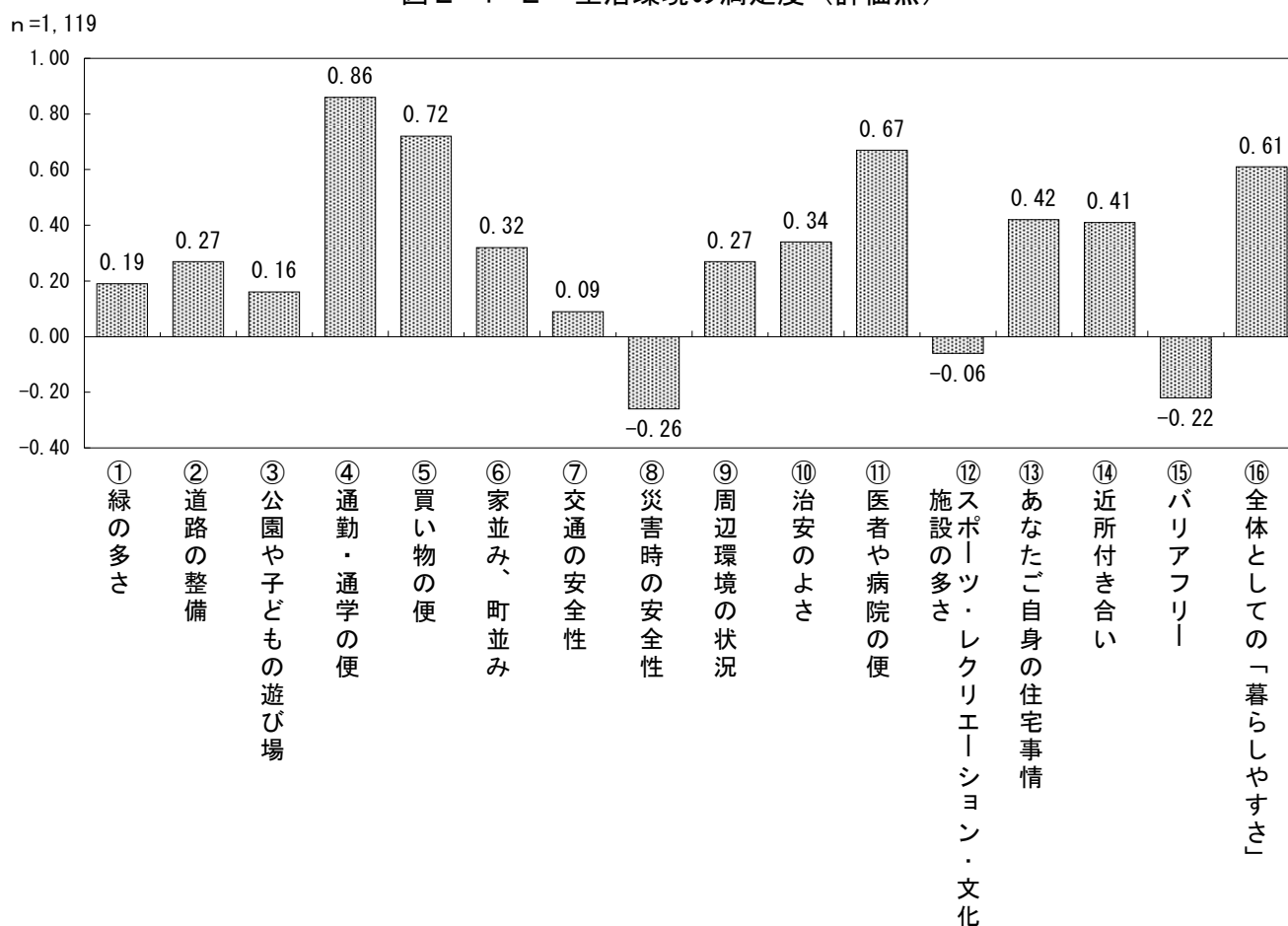
16項目にわたる生活環境評価の比較をしやすくするため、それぞれの回答を点数化し、下記の計算式で各項目の評価点を求めた。

$$\text{評価点} = \frac{\text{「満足している」} \times 2 + \text{「ほぼ満足している」} \times 1 + \text{「少し不満である」} \times (-1) + \text{「不満である」} \times (-2)}{\text{回答者数}}$$

この計算によると、評価点は-1.00 から+1.00 の間に分布し、0.00 が中間値で+1.00 に近いほど評価が高く、-1.00 に近いほど評価が低いことになる。また、「わからない」は計算から除外した。

16項目の生活環境評価を評価点で見ると、⑯を除いた個別の15項目のうち評価が高いのは、「通勤・通学の便」(0.86)、「買い物の便」(0.72)、「医者や病院の便」(0.67)の順となっている。一方、評価が低いのは「災害時の安全性」(-0.26)、「バリアフリー」(-0.22)、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」(-0.06)の順となっている。(図2-1-2)

図2-1-2 生活環境の満足度（評価点）



以下、生活環境評価の評価点を地域別にみる。地域ごとに、全体と比べて評価の高いベスト3の項目と、評価の低いワースト3の項目を表に掲げた。

【大森地域】

全体と比較すると、「医者や病院の便」が0.13ポイント、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が0.09ポイント、「あなたご自身の住宅事情」が0.01ポイント上回っている。

前回調査と比べると、今回ベスト3に入っている上位2項目は前回と同様の項目となっている。また、前回では「買い物の便」が3位であったが、今回は「あなたご自身の住宅事情」が3位となっている。一方、ワースト3では前回3位であった「災害時の安全性」が1位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「周辺環境の状況」が2位、「交通の安全性」が3位となっている。(図2-1-3、表2-1-1)

図2-1-3 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の比較)

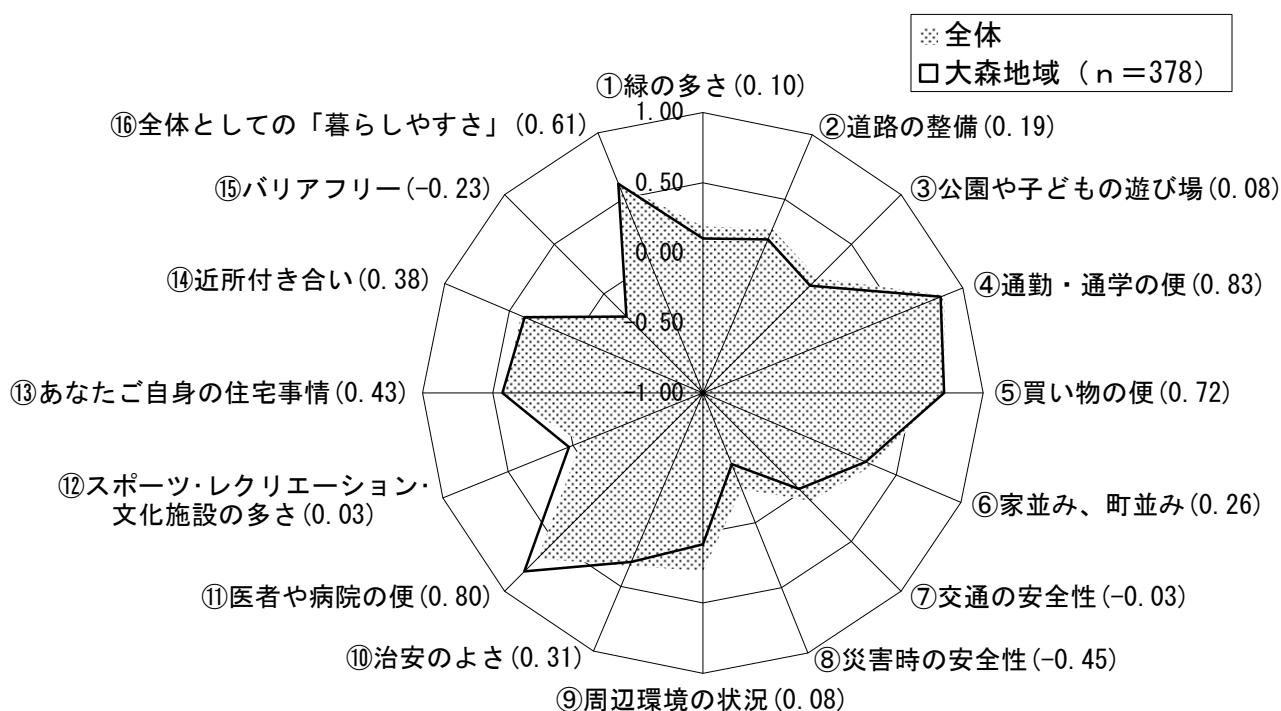


表2-1-1 生活環境の満足度－【大森地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑪ 医者や病院の便 0.13	⑫ スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.09	⑬ あなたご自身の住宅事情 0.01
ワースト3	⑧ 災害時の安全性 -0.19	⑨ 周辺環境の状況 -0.19	⑦ 交通の安全性 -0.12

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【調布地域】

全体と比較すると、「周辺環境の状況」が 0.52 ポイント、「家並み、町並み」が 0.38 ポイント、「治安のよさ」が 0.38 ポイント上回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では「周辺環境の状況」が前回3位から今回1位、「家並み、町並み」は前回に引き続き2位となっている。また、前回のベスト3にはなかった項目の「治安のよさ」が3位となっている。一方、ワースト3では、項目は前回と同様となっており、「買い物の便」が前回2位から今回1位、「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が前回1位から今回2位、「バリアフリー」は前回に引き続き3位となっている。

(図2-1-4、表2-1-2)

図2-1-4 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の比較)

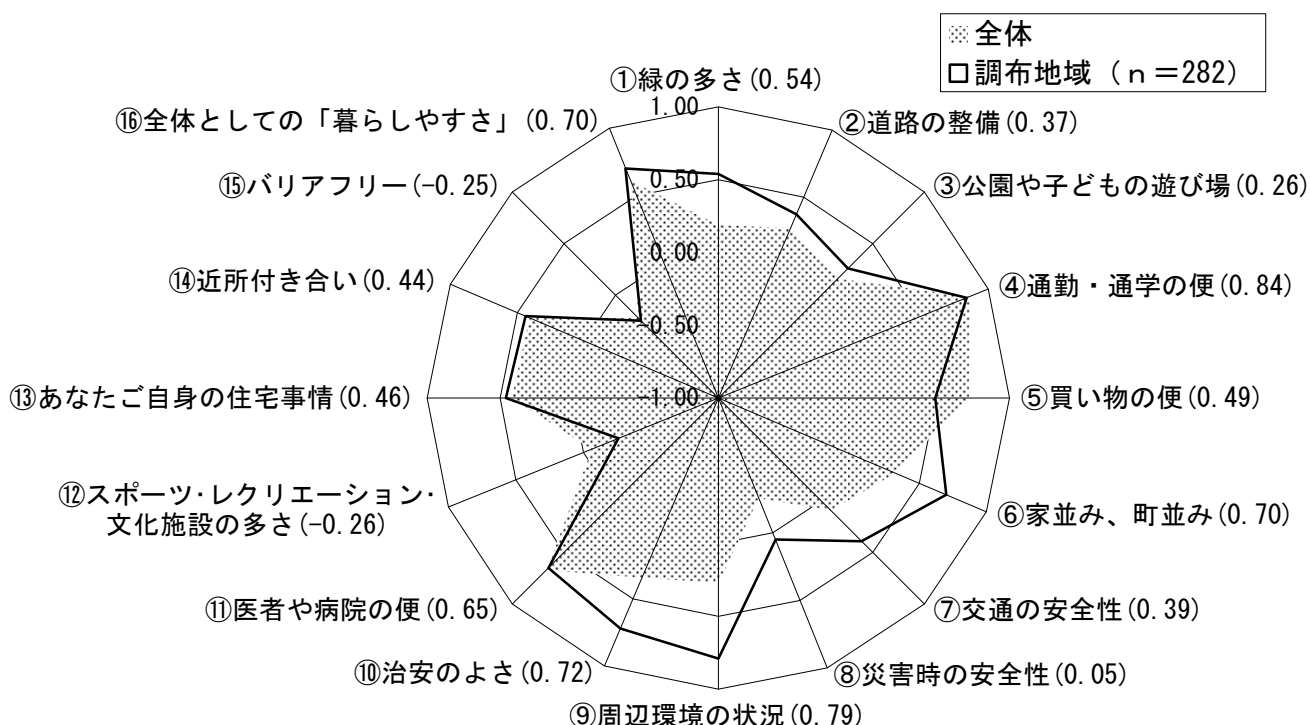


表2-1-2 生活環境の満足度－【調布地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑨周辺環境の状況 0.52	⑥家並み、町並み 0.38	⑩治安のよさ 0.38
ワースト3	⑤買い物の便 -0.23	⑫スポーツ・レクリエーション・ 文化施設の多さ -0.20	⑮バリアフリー -0.03

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

【蒲田地域】

全体と比較すると、「治安のよさ」が 0.28 ポイント、「家並み、町並み」が 0.21 ポイント、「緑の多さ」が 0.19 ポイント下回っている。

前回調査と比べると、ベスト3では「バリアフリー」が前回3位から今回1位、前回のベスト3にはなかった項目の「スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ」が2位、「買い物の便」が前回2位から今回3位となっている。一方、ワースト3では「治安のよさ」が前回に引き続き1位、「家並み、町並み」が前回3位から今回2位となっている。また、前回のワースト3にはなかった項目の「緑の多さ」が3位となっている。(図2-1-5、表2-1-3)

図2-1-5 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の比較)

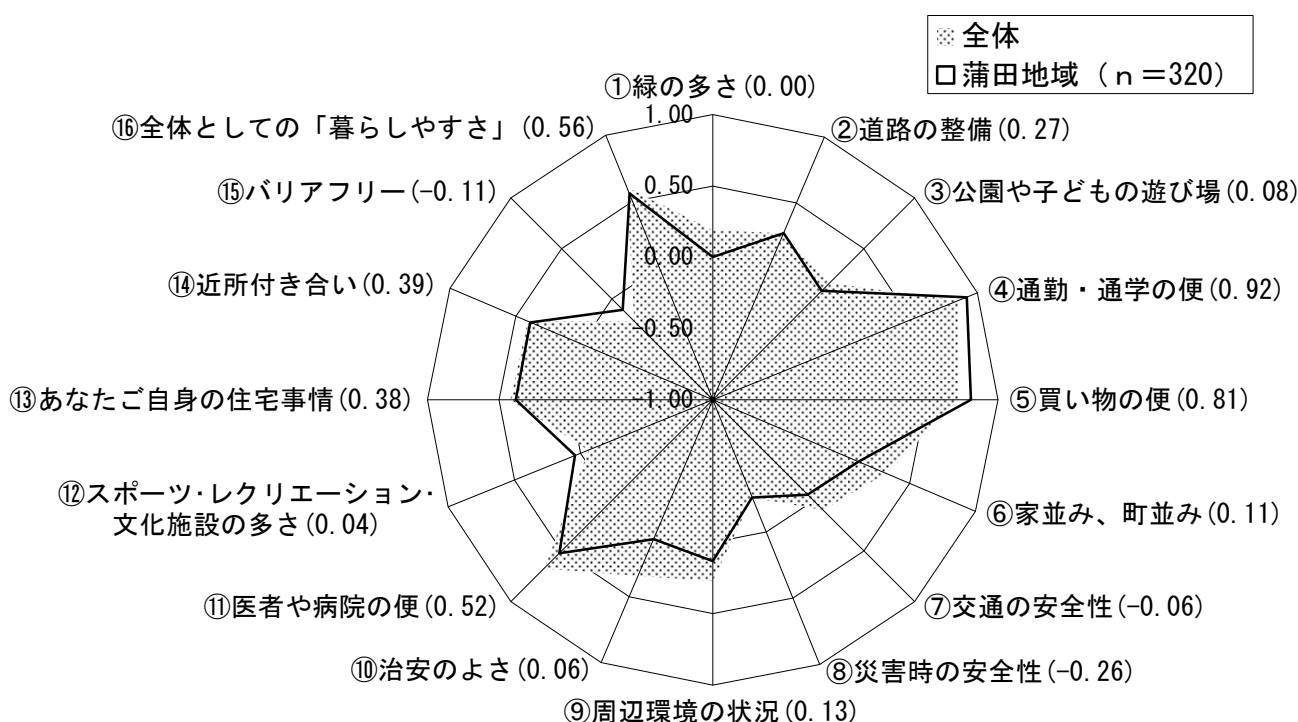


表2-1-3 生活環境の満足度－【蒲田地域】(全体との評価点の差ベスト3・ワースト3)

全体との差	1位	2位	3位
ベスト3	⑮バリアフリー 0.11	⑫スポーツ・レクリエーション・文化施設の多さ 0.10	⑤買い物の便 0.09
ワースト3	⑩治安のよさ -0.28	⑥家並み、町並み -0.21	①緑の多さ -0.19

【糞谷・羽田地域】

全体と比較すると、「周辺環境の状況」が 0.32 ポイント、「緑の多さ」が 0.26 ポイント、「家並み、町並み」が 0.22 ポイント下回っている。

前回調査と比べると、「公園や子どもの遊び場」が前回 2 位から今回 1 位となっている。また、前回のベスト 3 にはなかった項目の「買い物の便」が 2 位、「医者や病院の便」が 3 位となっている。一方、ワースト 3 では全て前回と異なる項目となっており、「周辺環境の状況」が 1 位、「緑の多さ」が 2 位、「家並み、町並み」が 3 位となっている。(図 2-1-6、表 2-1-4)

図 2-1-6 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】(全体との評価点の比較)

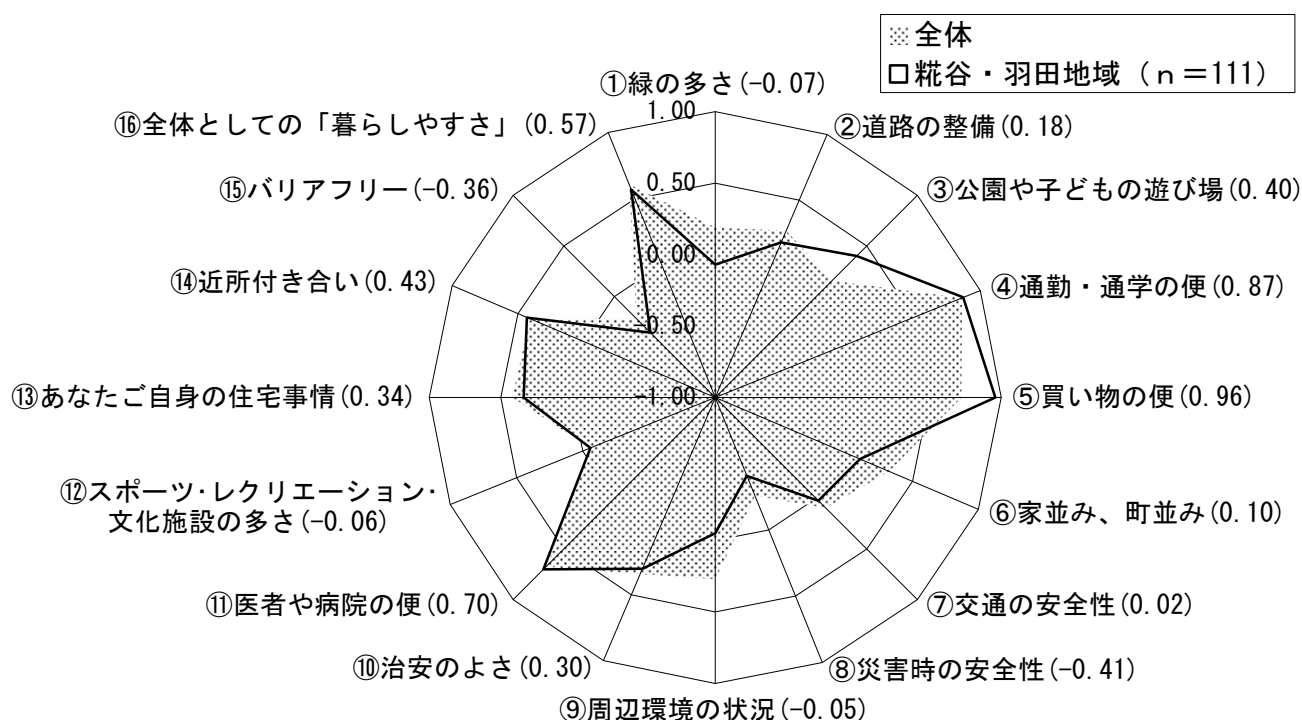
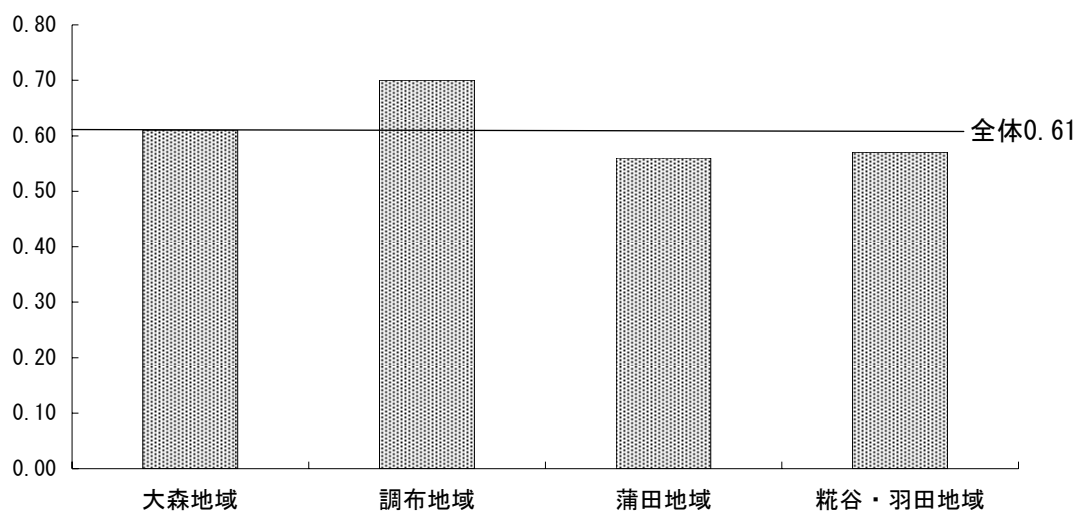


表 2-1-4 生活環境の満足度－【糞谷・羽田地域】(全体との評価点の差ベスト 3・ワースト 3)

全体との差	1 位	2 位	3 位
ベスト 3	③公園や子どもの遊び場 0.24	⑤買い物の便 0.24	⑪医者や病院の便 0.03
ワースト 3	⑨周辺環境の状況 -0.32	①緑の多さ -0.26	⑥家並み、町並み -0.22

※同ポイントの項目は選択肢の順に記載

図 2-1-7 生活環境の満足度＜全体としての「暮らしやすさ」＞—地域別



総合満足度を示す＜全体としての「暮らしやすさ」＞を地域別にみると、全体では 0.61 ポイントとなっており、前回調査の 0.62 ポイントより 0.01 ポイント減少している。

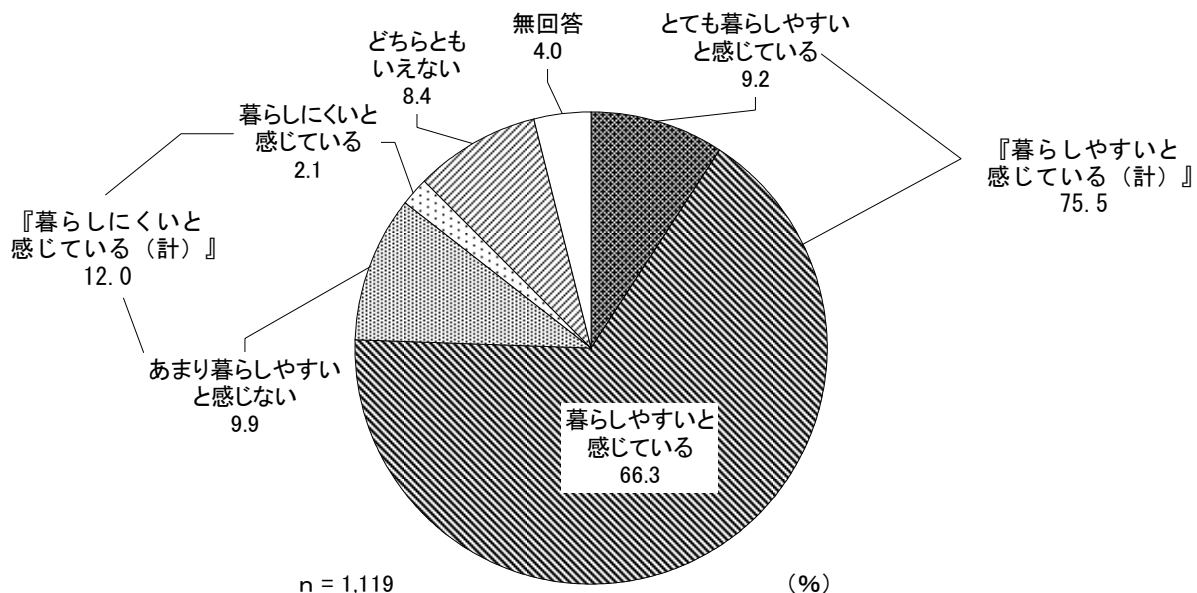
地域別でみると、調布地域が全体を上回っており、大森地域は全体と同数、蒲田地域と糎谷・羽田地域では全体を下回っている。(図 2-1-7)

(2) 住んでいるまちの暮らしやすさ

◇「とても暮らしやすいと感じている」と「暮らしやすいと感じている」を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』は7割半ば

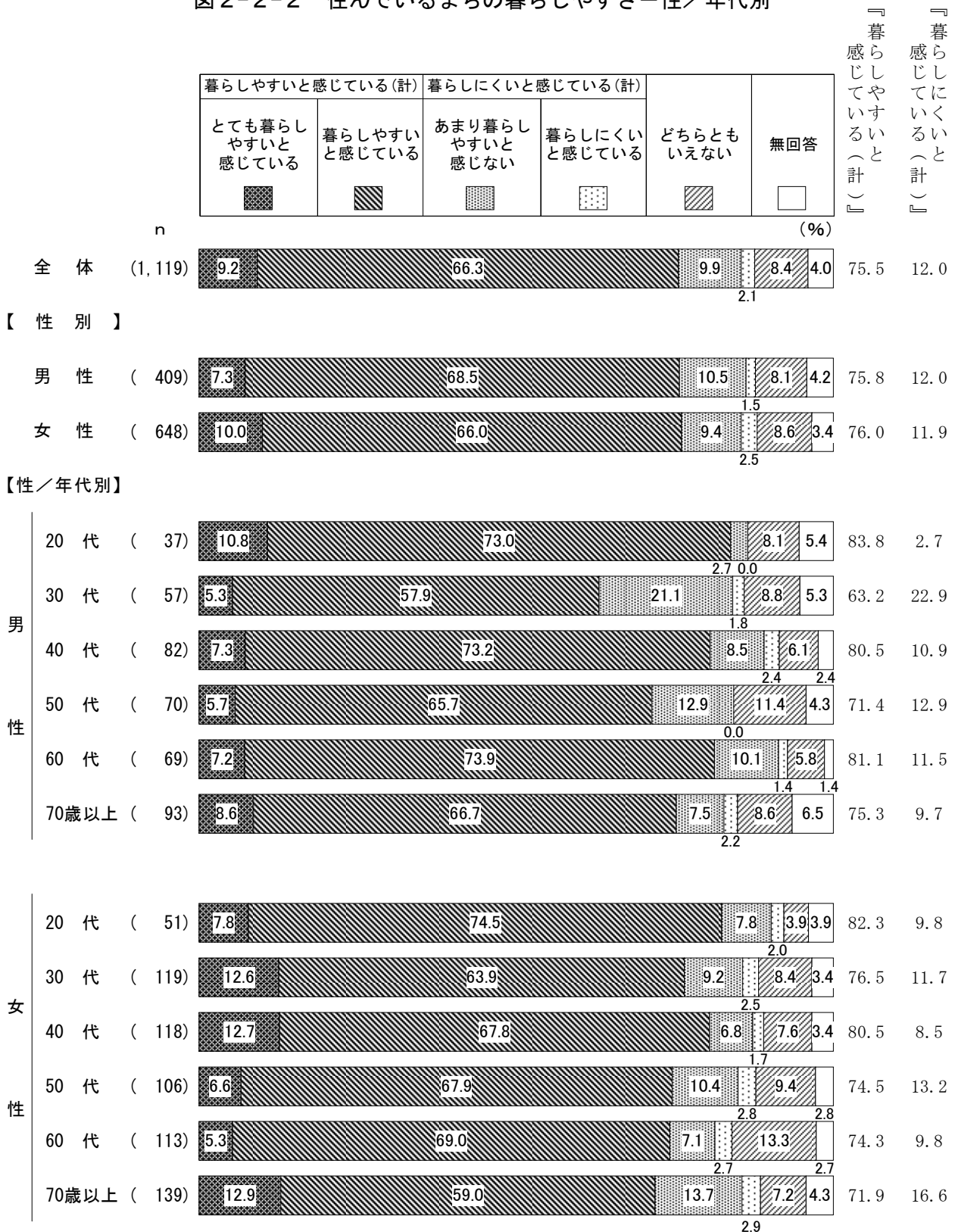
問5 現在住んでいるまちの暮らしやすさを、どのように感じていますか。(〇は1つだけ)

図2-2-1



現在住んでいるまちの暮らしやすさについて聞いたところ、「暮らしやすいと感じている」(66.3%)が6割半ばで最も高く、これに「とても暮らしやすいと感じている」(9.2%)を合わせた『暮らしやすいと感じている（計）』(75.5%)は7割半ばとなっている。また、「あまり暮らしやすいと感じない」(9.9%)と「暮らしにくいと感じている」(2.1%)を合わせた『暮らしにくいと感じている（計）』(12.0%)は1割を超えている。(図2-2-1)

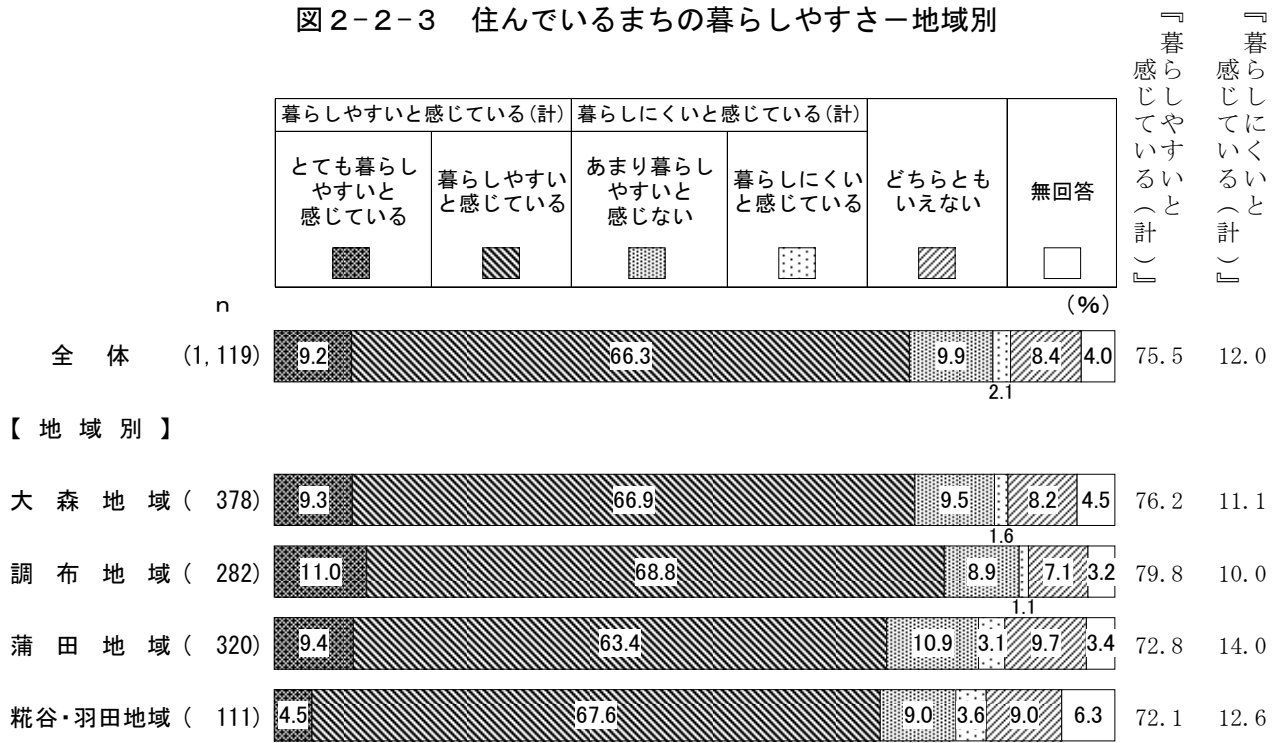
図2-2-2 住んでいるまちの暮らしやすさー性／年代別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性／年代別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は男性の20代(83.8%)と60代(81.1%)、女性20代(82.3%)で8割を超え高くなっている。一方、『暮らしにくいと感じている(計)』は男性30代(22.9%)で2割を超え高くなっている。(図2-2-2)

図2-2-3 住んでいるまちの暮らしやすさ—地域別



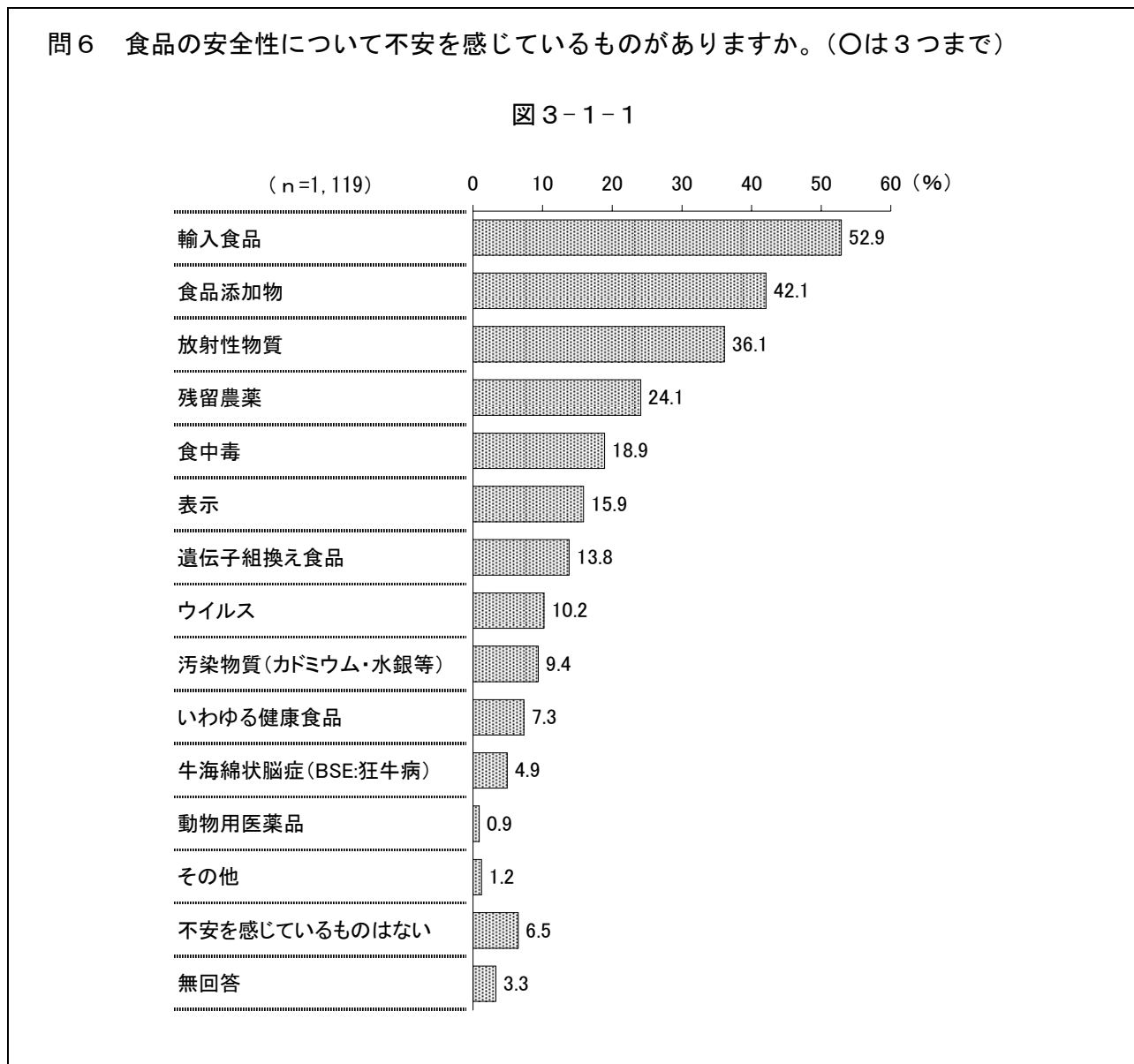
地域別でみると、『暮らしやすいと感じている(計)』は調布地域(79.8%)で8割と高くなっている。一方、『暮らしにくいと感じている(計)』は蒲田地域(14.0%)で1割半ばと高くなっている。(図2-2-3)

《基本目標 1 生涯を健やかに安心していきいきと暮らせるまち》

3. 健康に暮らせるまち

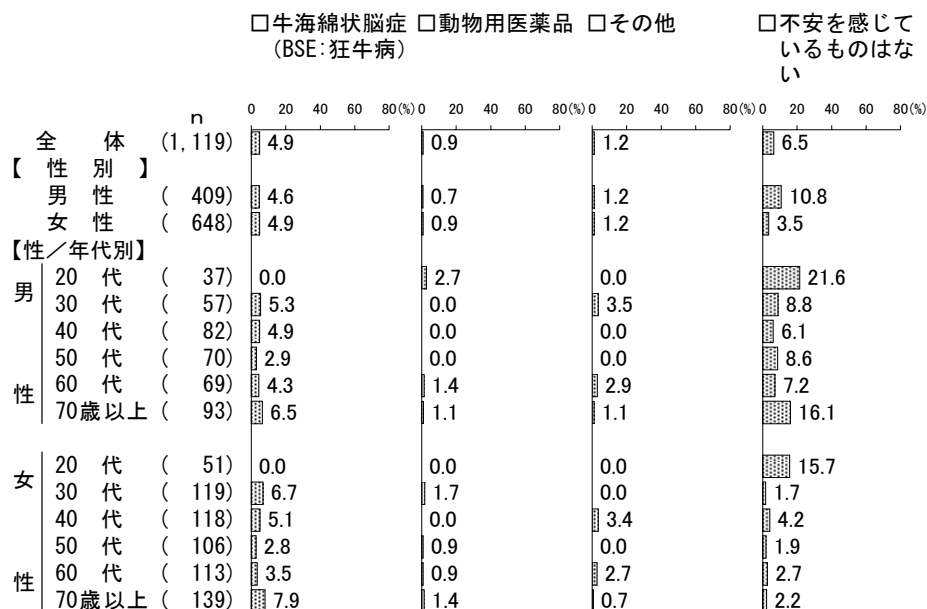
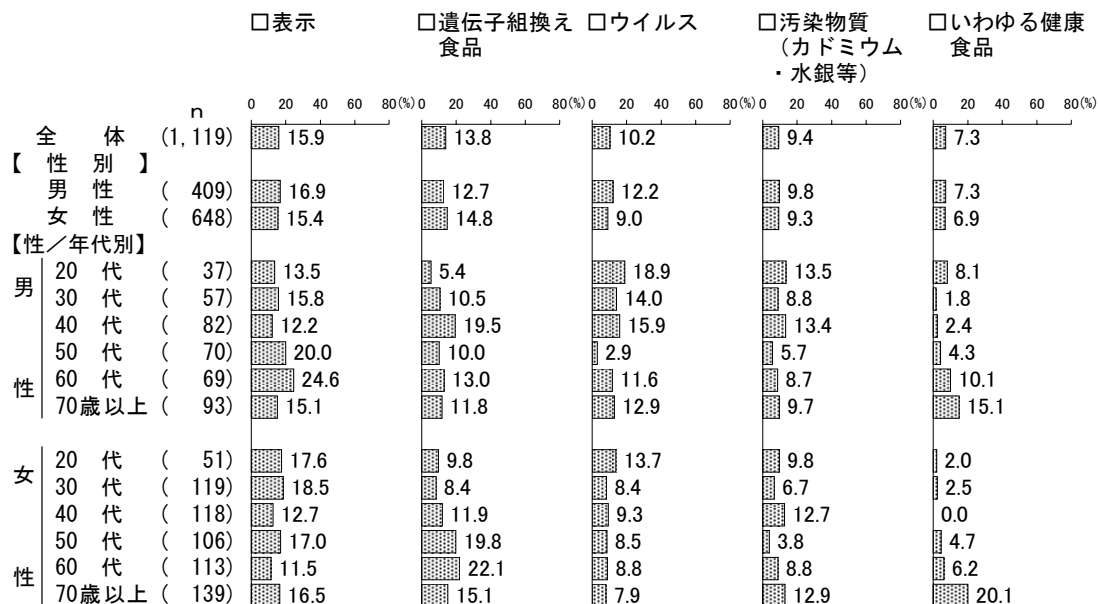
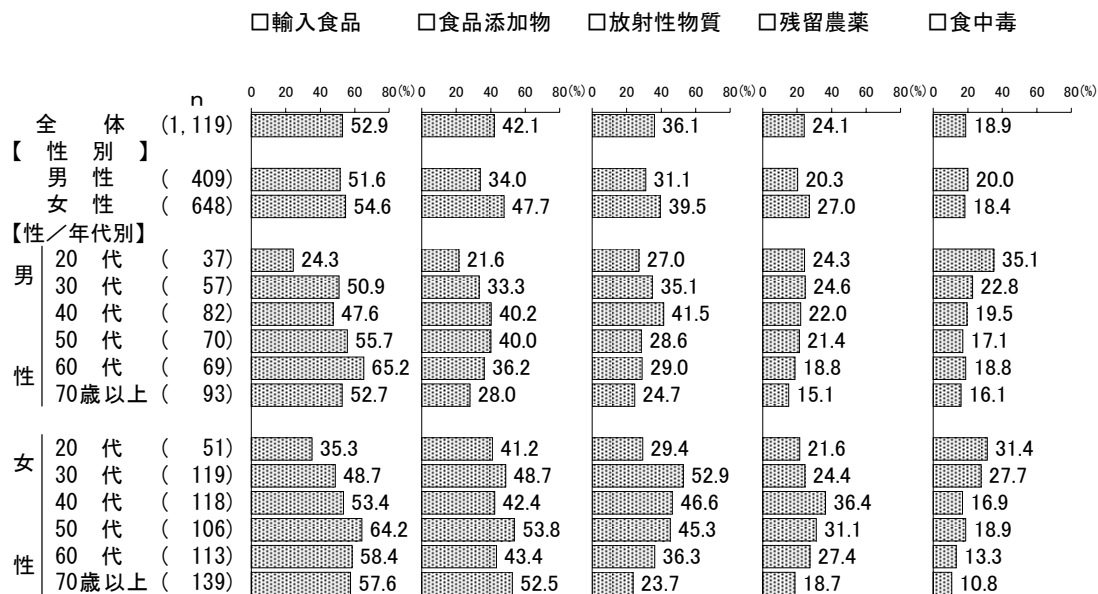
(1) 食品の安全性についての不安

◇「輸入食品」が5割を超える



食品の安全性について不安を感じているものがあるか聞いたところ、「輸入食品」(52.9%)が5割を超え最も高く、次いで「食品添加物」(42.1%)、「放射性物質」(36.1%)、「残留農薬」(24.1%)、「食中毒」(18.9%)などの順になっている。(図3-1-1)

図3-1-2 食品の安全性についての不安—性／年代別



性別で見ると、「食品添加物」は女性（47.7%）が男性（34.0%）より13.7ポイント高く、「放射性物質」は女性（39.5%）が男性（31.1%）より8.4ポイント高くなっている。一方、「不安を感じているものはない」は男性（10.8%）が女性（3.5%）より7.3ポイント高くなっている。

性／年代別で見ると、「輸入食品」は男性60代（65.2%）と女性50代（64.2%）で6割半ば、「食品添加物」は女性の50代（53.8%）と70歳以上（52.5%）で5割を超え高くなっている。また、「放射性物質」は女性30代（52.9%）で5割を超え、「残留農薬」は女性40代（36.4%）で3割半ばと高くなっている。（図3-1-2）